

(参考) 本土の連携事例

事例8 昭和信用金庫（東京都）

- 日本公庫との勉強会などを通じて、顔の見える関係を構築し、融資審査ノウハウも習得。
- 日本公庫との創業融資に係る協調融資商品の創設により、協調融資に取り組みやすく。

➤ 連携の取組み

- ・創業支援セミナーや物産展（三ツ星バザール：創業者は出展料無料）、ビジネスマッチング交流会等について、日本公庫・商工会議所との共催や連携。
- ・28年度より四半期ごとに日本公庫と当金庫による情報交換会を開催。具体的な審査方法や、連携実績を上げるための方策について担当者レベルで協議。
- ・毎年度、日本公庫（渋谷支店）で勉強会を開催。28年度は支店長、27年度は主に融資役席が対象。目利き力向上につながるような融資審査ノウハウについても、日本公庫から手ほどき有り。また、日本公庫各支店が当金庫営業店での勉強会を開催（28年度:8店舗、29年度5店舗）。
- ・日本公庫との間で、女性・若者・シニアを対象とした、創業融資に係る協調融資商品「三ツ星創業サポート」を29年1月より取り扱いを開始。これにより、日本公庫との協調融資を行いやすくなり、ひいては創業融資自体にも取り組みやすくなった。

【「三ツ星創業サポート」概要】

協調融資 商品	三ツ星創業サポート	
	昭和信用金庫 (女性若者シニア創業サポートローン)	日本政策金融公庫 (女性若者シニア起業家資金等)
ご利用いただける方	・女性、若者(39歳以下)、シニア(55歳以上)で、昭和信用金庫の営業地区内で創業される方又は創業後5年未満の方。 ・昭和信用金庫の会員または会員資格を有する方	
融資限度額	2,000万円以内(昭和信用金庫と日本政策金融公庫との融資合計額) 融資割合は原則5対5ですが、内容等により融資割合や合計額を変更することがあります。	
担保	原則、無担保	
その他	・詳細は両機関の商品取扱要領等に準じます。	

(昭和信用金庫HPより)

➤ 日本公庫との連携による当金庫側のメリット

- ・勉強会や情報交換会を通じて、融資審査のノウハウの手ほどきを得られ、当金庫行員の目利き力向上に寄与。
- ・協調融資商品を取り扱うことにより、営業店としても、協調融資、ひいては創業融資に取り組みやすくなる。

➤ 当金庫の創業融資の実績

26年度		27年度		28年度		29年度(上半期)	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
23件 (1件)	1億1,900万円 (700万円)	33件 (1件)	2億100万円 (800万円)	50件 (8件)	3億2,700万円 (4,400万円)	37件 (4件)	2億1,200万円 (1,400万円)

※創業後5年未満の先。第2創業を含まない。()内書きは、協調融資。 ※「三ツ星創業サポート」の29年3月～9月末実績(累計)は、6件・3,150万円。

15

(参考) 本土の連携事例

事例3 みちのく銀行（青森県）

- 日本公庫との協調融資商品において、据置期間の拡大（最大2年5ヵ月）や金利引下げの措置を取っている他、事業計画書等の融資審査参照書類を日本公庫と共有し顧客負担を軽減。融資後は当行担当者が月1回経営者と面談の上、情報を日本公庫に適宜共有。

➤ 連携の取組み

- ・日本公庫との協調融資商品『みちのく創業チャレンジ資金』（28年4月より）においては、①据置期間を最大2年5ヵ月に拡大（通常1年）（※1）、②貸出金利を0.2%引下げ（他の項目を含め最大0.5%）、③融資審査時に参照される事業計画書、財務諸表、経営者の経歴書等について、（顧客同意のもと）日本公庫と共有し顧客負担を軽減（融資審査は各々で実施）、④融資後に当行法人営業担当者が月1回経営者と面談（やりとりは適宜日本公庫に共有）。

（※1）創業者に資金繰りに煩わされることなく本業に専念してもらうため（当行がリスクを取れる期間を設定）。

- ・28年5月・6月及び29年11月に地区別勉強会を開催（※2）。

【「みちのく創業チャレンジ資金」案内(抜粋)】

（※2）青森・弘前・八戸・函館で開催。テーマは当行の創業融資の取組や創業に係る成功事例等。日本公庫は、支店長、融資課長、融資担当者、当行からは地区内の支店長、法人営業の役員及び融資担当者。

- ・日本公庫と人事交流を行っており、29年9月に日本公庫から当行に1名（1週間）（※3）、22年度に当行から日本公庫に1名（1年間）派遣している（※4）。

（※3）地域創生部に配属。地方自治体との連携や農業融資関連業務及び産直市での取引先企業PRに従事。

（※4）畜産関係の融資ノウハウの勉強のため、盛岡支店に配属。主に融資審査業務及び顧客面談等に従事。

➤ 日本公庫との連携による当行側のメリット

- ・日本公庫の各業態のビジネスモデルに対する考え方や、日本公庫が全国展開していることによる様々な融資情報（例えば、融資事例や他地域から移住してきた創業希望者の紹介）が得られる。

➤ 当行の創業融資の実績

取組引下げ項目	引下げ幅	最大引下げ幅
1 「日本政策金融公庫との協調融資」「未来を変える挑戦資金」の利用を希望される方	▲0.2%	▲0.5%
2 女性・若年層(30歳未満)・シニア(55歳以上)で創業する方	▲0.2%	
3 「おあもり産業総合支援センター」に所属するインキュベーションマネージャーの支援を受けて創業する方	▲0.2%	
4 U/I・J・Nにより創業される方	▲0.2%	
5 事業の種別により、2名以上の正規雇用者を創出される方	▲0.2%	
6 事業費の2割は自己資金対応できる方	▲0.2%	
7 補助金利用や経営革新等、自治体等の認定を受けて創業する方	▲0.2%	
8 当行と創業に関する連携協定を締結する自治体で創業する方	▲0.2%	

（みちのく銀行HPより）

※上記は、同商品における金利引下げ項目。

26年度		27年度		28年度		29年度(速報値)	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
103件	93億1,200万円	123件	107億8,600万円	117件	87億6,100万円	105件	31億700万円

※創業後1年未満の利用先。第2創業を含む。

10

(参考) 本土の連携事例

事例20 広島信用金庫（広島県）

- 日本公庫支店との間で、支店渉外担当役席者の連絡先（名簿）を共有することで、顧客からの相談に対し連絡を取り合える体制を整備。
- 日本公庫との協調融資により、創業者に対する柔軟な融資が可能に。

➤ 連携の取組み

- ・ 日本公庫とは、17年9月に新規開業支援等の分野に係る『業務連携・協力に関する覚書』を締結。18年11月より、当金庫主催の「創業応援サロン」(※)にて、日本公庫から講師派遣などを実施。
- (※) 起業家が日本公庫・ひろしま産業振興機構・土業等の専門家前で事業計画をプレゼンし、アドバイスを受ける取組。平成28年9月までに31回開催しており、97名が参加（約7割が起業）。
- ・ 26年10月に当金庫（渉外・融資担当が配置されている40支店）と営業エリアが重なる日本公庫支店（5支店）との間で支店渉外担当役席者の名簿を交換。
- ・ 渉外係向けの研修へ日本公庫中国創業支援センターから講師を派遣してもらい、融資審査における日本公庫の視点などのレクチャーを受けている。

➤ 日本公庫との連携による当金庫側のメリット

- ・ 協調融資は、融資希望額が信用リスクの観点から当金庫の対応可能額を超過する場合などに有効。

➤ 当金庫の創業融資の実績

26年度		27年度		28年度		29年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
122件	2億6,200万円	172件	3億9,600万円	227件	5億8,600万円	274件	7億6,400万円

※当金庫の創業融資商品「未来」・広島県及び広島市の制度融資（預託金方式）の実績。第2創業を含む。協調融資の実績は把握していない。

【ひろしん創業支援センター「B-スクエア」】
 <外観> <ミーティングルーム>



<オフィス>



<セミナー室>



(広島信用金庫HPより)

※広島信用金庫が運営するインキュベーション施設（当金庫単独）。地域の起業家に対し、低コストにてオフィスを提供するとともに、種々の事業サポートを実施。なお、「創業応援サロン」も当施設において開催。

民業補完の取組状況

協調案件の公表事例

～八重山地域の観光振興を民間金融機関との協調融資で支援～（平成28年12月5日公表）

- 地元の老舗である宮平観光㈱のホテル棟建設に対し、民間金融機関と協調して出・融資を実行。
- 本件により、①良質な宿泊施設の提供により八重山地域の観光関連産業の振興に資すること、②ホテル施設の老朽化に対応した新館建設により当社の事業基盤及び収益基盤の強化が図られること、③新規雇用の創出等が期待される。
- 当公庫は、民間金融機関と連携しながら、中小企業の成長・発展を支援することにより、地域の産業振興に貢献していく。



【石垣】沖縄振興開発金融公庫八重山支店（山城興司支店長）は5日、石垣市美崎町に「南の美ら花ホテルミヤヒ」の新館を建設する宮平観光（親盛一功社長）に建築費として県内地銀2行と計16億3千万円を協調融資すると発表した。総事業費は18億3千万円。融資の内訳は沖縄公庫10億円、海邦銀行5億3千万円、琉球銀行1億円、自己資金2億円を投じる。新館は地上9階建て鉄筋コンクリート造り、21平方

米の客室95室を備える。12月中に運営する飲食店などを解体し、来年2月に1353平方メートルの敷地で建設に着手、2018年6月の開業を目指す。

既存の宿泊施設と合わせ客室数は計253室となる。既存の施設は長年の運営で老朽化が進んで経営課題となっており、新館建設で事業基盤の強化を図る。親盛社長は「新館の建設でよりなる誘客に期待でき、今後島の発展につなげていきたい」と話した。

石垣・宮平観光に 公庫・2地銀16億

ホテル棟建設で協調融資



「南の美ら花ホテルミヤヒ」の新館の完成予想図（宮平観光提供）

平成28年12月6日 琉球新報